

【帰国生徒選抜】

本学科の帰国生徒選抜では、造形に関する思考力及び表現力の検査を行い、創造的・論理的に空間を把握する能力と、建築を中心としたテーマに対する小論文の検査を行い、思考力・表現力、創造性や論理性に関する能力を判定します。特に、自身の好奇心によって身についた想像力、空間認識力、思考力を生かして、設問に対して独自の解釈や発想を持つことや、その解釈や発想を裏付けようとする論理的な思考を同時に展開できること、また、物事に対する的確な理解力、及びその理解を踏まえながら独自の思考を表現できることを重視します。

今年度は、実技試験である造形Ⅰでは、傾けた立方体の中に液体を注ぎ込み、さらに円柱をその液体中に沈め、液体と円柱が一体となった物体について、その立体形状を把握できるか、その立体形状をスケッチによりわかりやすく表現できるかといった、思考力、空間認識力、表現力をみることを出題意図としています。

また、小論文試験では、建築家・原広司の『集落への旅』からの引用文をもとにして、著者の集落に関する解釈を要約した上で、著者による「集落は『インターナショナリズムの視点』で正しく解釈できる」という主張について考察し、またその主張がこれからの都市や住環境を考える際に与える示唆について論述させることにより、文章の理解力と、自身の体験を踏まえて論述する文章構成力と表現力をみることを出題意図としています。